紛争地へ「和」の柔道指導

金メダリスト 山下泰裕さん

柔道を通じて国際交流活動を続けているロサンゼルス五輪金メダリスト、山下泰裕さん(53)＝東海大学体育学部長＝が、今月中旬から中東での交流を計画している。紛争の絶えないイスラエル、パレスチナの両地に赴き、柔道から学ぶ「和の心」を現地の子どもたちに伝えるつもりだ。（山田佳毅）

外務省から依頼を受け、山下さんが理事長を務めるNPO法人「柔道教育ソリダリティー」の活動として準備を進めてきた。17日から約1週間、テルアビブやエルサレムに滞在し、イスラエル、パレスチナの柔道指導者と子どもたちを対象にした講演や実技指導を予定している。

講演では、ロス五輪の決勝で、けがをした山下さんの足をあえて狙わなかったラシュワン選手（エジプト）の話などを例に出し、相手に敬意を表す大切さを訴える。

山下さんの教え子で現在は英国に留学中の井上康生さん(32)＝シドニー五輪金メダリスト＝も現地に駆けつけ、一緒に技の模範演技を披露する。

山下さんは2007年に中国の青島、今年は南京に柔道館を建設するために動き、日中友好の橋渡しに一役買ってきた。また、柔道家でもあるロシアのプーチン首相とも親交が深く、柔道を通した幅広い国際交流を続けている。

今回の活動の意義について山下さんは「まずは現地の人に柔道の楽しさを知ってもらいたい。自分と違う人間を認め、同じ仲間なんだと思うようになる、きっかけになってくれたらうれしい」と話す。

山下さんは交流する両地の子どもたちを12月に日本で行われる少年柔道大会に招く計画も進めている。

今年3月、訪れた中国・南京の柔道館で子どもたちと交流する山下泰裕さん（右）＝柔道教育ソリダリティー提供